

平成30年6月18日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03343

研究課題名(和文) 女性活躍の効果的推進と条件整備

研究課題名(英文) Women's Empowerment and Promoting Work-Life-Balance in Japan

研究代表者

臼井 恵美子 (Usui, Emiko)

一橋大学・経済研究所・准教授

研究者番号：50467263

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,840,000円

研究成果の概要(和文)：女性の就業と密接に関連した男性の働き方や子どもの育児・教育の在り方に焦点をあてて分析した。共稼ぎ夫婦の場合、妻の家事労働は平日に負担が重く、夫の長時間労働を是正し、家事労働の一部を外注すれば軽減できる可能性がある。父親の長時間労働の軽減は、仕事と生活の調和から父親が子どもと過ごす時間を増やし、夫婦の家事分担時間を変えて母親の育児負担を軽減し、母親の就労を促進する可能性がある。女性は加齢に伴い妊孕性が低下するが、そうした妊娠知識に乏しい40代女性は将来子どもを持てる可能性を高く見積もっているため、妊孕性の知識を啓蒙することで、社会全体の少子化に歯止めをかける一助にできる可能性がある。

研究成果の概要(英文)：This empirical study presents three main findings in Japan. First, among dual-earner couples, wives are performing a significant share of housework on weekdays while husbands are not, and wives experience higher spousal satisfaction when helped on weekdays. Second, while mothers working full-time spend less time with children's homework than non-fulltime, fathers compensate for some of this lost quality time though not making up all lost quality time. Fathers working over 60 hours/week spend less time with children, and if less working hours, it may help mothers reduce their time with children, thereby facilitating mothers' labor market participation. Third, among married women of early 40s without children, those without knowing fertility decline with age, their subjective probability of having children are 10% higher. Realizing fertility patterns accurately, it would make women more forthcoming to have children before turning 40.

研究分野：労働経済学

キーワード：経済政策 女性の就労 少子化

1. 研究開始当初の背景

日本の年少・生産年齢人口は今後ますます減少する中、女性が就労と出産・子育てを両立できる社会制度を構築することは、女性の自己実現はもとより日本経済の成長のためにも今後ますます重要になってくる。しかし、日本で女性が働く際には様々な困難が存在する。そのため、多くの女性が仕事と結婚・出産との両立に困難を感じており、自分の希望する子ども数をかなえていない。加えて、結婚や出産などのライフ・イベントを機に女性が労働市場から退出している状況である。従って、女性だけでなく、女性の就業と密接に関連している男性の働き方や子どもの育児・教育の在り方にも焦点をあてた研究をする必要がある。

2. 研究の目的

社会調査「くらしと仕事の調査」、及び、「くらしと仕事に関する学生パネル調査」など、豊富なパネル調査を活用して、女性の活躍促進に資する実証分析を行なう。具体的には、男性の働き方が、家事育児分担の在り方と夫婦の自己実現・生活満足度へ及ぼす影響の分析、女性の就業と、子どもの教育との関連についての考察、女性の妊孕性は加齢とともに低くなるという知識の普及状況と、未婚者増加や晩婚化・晩産化の進展との関連の解明に取り組む。これらの分析結果に基づいて、女性活躍推進に対してエビデンスに基づく有効性の高い新たな視点や方向性を提示し対応する政策の立案に寄与する。

3. 研究の方法

本研究においては、女性の就業と密接に関連している男性の働き方や子どもの育児・教育の在り方に焦点をあて、社会調査「くらしと仕事の調査」、「くらしと仕事に関する学生パネル調査」などの豊富なパネル情報を利用して実証分析を行った。

4. 研究成果

社会調査「雇用と子育てに関するパネル調査」、「くらしと仕事に関する学生パネル調査」などの調査を用いて主に下記の研究を推進した。

配偶者の働き方と夫婦満足度

専業主婦の場合、夫が週末に家事の分担割合を高めると、妻の夫に対する満足度は高まる。しかし、就業している妻の場合は、平日に家事分担割合を高めると、妻の夫に対する満足度は高まる。そのため、日本の共稼ぎ夫婦にとって、家事労働は、とくに平日においてより負担であり、夫の長時間労働を減らしたり、家事労働の一部を家庭外に求める（外注する）ことによって軽減できる可能性がある。そのような変革によって、結婚している女性がさらに労働市場に参入するのを支援できる可能性がある。

親の働き方と子どもの教育

親の働き方と子どもの家庭教育との関係、とりわけ、就業している母親と専業主婦の母親とを比較して、母親と父親が子どもと「充実した交流時間」を過ごしているかを分析した結果、母親がフルタイムで働いている場合には母親が子どもの勉強を見る頻度は下がるが、それを補うように父親が子どもの勉強を見る頻度が高くなっている。しかし、子どもの勉強を見る頻度は、母親が子どもの勉強を見る頻度が下がる分を父親がある程度補ってはいるが、両親の合計では減少しており、完全には補っていない。父親が長時間労働の場合、子どもの勉強をみる頻度、及び、共に食事をする回数が少ない。従って、父親が長時間労働を是正し仕事と生活の調和を図るならば、父親が家事・育児に時間をかけることができるとともに、夫婦の分担時間が変わって母親の育児負担を軽減させることになり、母親の就労を促進することにつながる可能性がある。

妊娠知識が出産に対する主観的期待に与える影響

女性の妊孕性は、年齢が高くなるほど低下する。加齢とともに女性の妊孕性が低くなるという知識（特に、女性は30代と比べて40代の受胎率は低くなるという知識）の理解度によって、子どもを持つ主観的期待確率に違いがあるかどうかを分析した。その結果、子どもがいない40代前半の女性、及び、その年齢の配偶者をもつ男性のグループは、正しい妊娠知識がある人より、正しい妊娠知識がない人のほうが、生涯にわたり子どもを持つであろうと思っている主観的期待確率が、10%程度高いことがわかった。このことは、妊娠についての正しい知識の普及により、妊娠適齢期に子どもを産むことを啓蒙することで、子どもを持つことができる夫婦が増え、結果として、日本社会全体の少子化に歯止めをかける一助となる可能性があることを示唆している。

中年女性の介護と就業

50代女性が親（義理の親を含む）の介護に従事する場合、その女性の就業行動がどの程度の影響を受けるのかを分析した。この分析を進めるにあたって、特に注目した就業行動の変数は、就業の有無、週の労働時間、及び、週に働く日数である。このような研究は、欧米諸国においては蓄積されているが、日本においては少ないのが実情である。50代女性の就業の分析結果によると、親の介護にあたることによって、50代女性が就業する可能性は若干減るが、彼女たちが就業している場合の週の労働時間や、週に働く日数には変化がないということが明らかになった。欧米においては、そのような場合は、就業の可能性に変化はないが、働く時間は減るという分析結果

がある。従来から、日本の 50 代女性の平均的な週の労働時間は、欧米の同世代の女性よりも短い。そのために、こうした一面からみると、日本の 50 代女性は、欧米と比べた場合、就業と介護を両立しているように見える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 27 件)

Oshio, Takashi, and Usui, Emiko. “How Does Informal Caregiving Affect Daughters’ Employment and Mental Health in Japan?” *Journal of the Japanese and International Economies*, 査読有, 近刊 DOI: 10.1016/j.jjie.2018.01.001.

Fujii, Mayu, Shiraiishi, Kousuke, and Takayama, Noriyuki. “The Effects of Early Job Separation on Later Life Outcomes.” *Journal of the Japanese and International Economies*, 査読有, 近刊, DOI: 10.1016/j.jjie.2017.11.002.

Usui, Emiko, Shimizutani, Satoshi, and Oshio, Takashi. “Are Japanese Men of Pensionable Age Underemployed or Overemployed?” *Japanese Economic Review*, 査読有, 67(2), 2017, 150-168. DOI: 10.1111/jere.12094.

Kobayashi, Miki, and Usui, Emiko. “Breastfeeding practices and parental employment in Japan.” *Review of Economics of the Household*, 査読有, 15, 2017, 579-596. DOI: 10.1007/s11150-014-9246-9.

Usui, Emiko, Shimizutani, Satoshi, and Oshio, Takashi. “Health Capacity to Work at Older Ages: Evidence from Japan.” David A. Wise, ed., *NBER book Social Security Programs and Retirement Around the World: The Capacity to Work at Older Ages*, University of Chicago Press, 査読無, 2017, 219-241.

Usui, Emiko. “Comment on “Availability of Long-term Care Facilities and Middle-aged People’s Labor Supply in Japan.”” *Asian Economic Policy Review*, 査読無, 12(1), 2017, 113-114, DOI: 10.1111/aep.12164.

Oshio, Takashi and Usui, Emiko. “Informal Parental Care and Female Labor Supply in Japan. *Applied Economics Letters*, 査読有, 24(9), 2017, 635-738, DOI: 10.1080/13504851.2016.1217303.

Takayama, Noriyuki. “Funded Pensions: The Japanese Experience and Its Lessons (in Chinese).” *Comparative Studies (比較)*, 査読有, 88(1), 2017, 42-62.

高山憲之「Several Questions on Basic Ideas of the 1994 World Bank Report Averting the Old Age Crisis(中国語版)」*社会保障評論*, 査読有, 1(4), 2017, 36-43.

高山憲之・白石浩介「配偶者控除見直しに関するマイクロシミュレーション

()」*年金研究*, 査読有, 6, 2017, 1-37, DOI: 10.20739/nenkinkenkyu.6.0_1.

高山憲之・白石浩介「年金と高齢者就業：パネルデータ分析」*年金研究*, 査読有, 6, 2017, 38-100, DOI: 10.20739/nenkinkenkyu.6.0_38.

Kobayashi, Mayu, Kobayashi, Miki, Okumura, Tsunao, and Usui, Emiko. “Sharing Housework between Husbands and Wives: How to Improve Marital Satisfaction for Working Wives in Japan.” *IZA Journal of Labor Policy*, 査読有, 5(18), 2016, 1-15. DOI: 10.1186/s40173-016-0074-9.

Usui, Emiko. “Restricted Regular Employees and Compensating Wage Differentials: Theory and Evidence.” *Japan Labor Review*, 査読無, 13(2), 2016, 6-19.

Nakamura, Sayaka. “Determinants of Contraceptive Choice among Japanese Women: Ten Years after the Pill Approval.” *Review of Economics of the Household*, 査読有, 14(3), 2016, 553-575. DOI: 10.1007/s11150-013-9228-3.

臼井恵美子・小林美樹「親の働き方と子供の家庭教育」*経済研究*, 査読有, 67(1), 2016, 69-87.

高山憲之・白石浩介「年金受給開始前後における就業状況と年金受給の実態」*日本年金学会誌*, 査読無, 35, 2016, 12-21.

高山憲之・白石浩介「くらしと仕事に関するインターネット調査」からみた中年未婚男性の生活実態と意識：調査結果の概要」*年金研究*, 査読無, 3, 2016, 210-262, DOI: 10.20739/nenkinkenkyu.3.0_210.

高山憲之「日本の公的年金：基本的考え方」*統計*, 査読無, 11, 2016, 33-38.

高山憲之・白石浩介「配偶者控除見直しに関するマイクロシミュレーション ()」*年金研究*, 査読有, 5, 2016, 1-25, DOI: 10.20739/nenkinkenkyu.5.0_1.

佐藤純恵・小林美樹「新規卒者の学校から就業への移行に関する分析 学生時代のパフォーマンスが就職に与える影響」*国民経済雑誌*, 査読無, 214(6), 2016, 45-56.

②① Okumura, Tsunao. and Usui, Emiko. “Intergenerational Transmission of Skills and Differences in Labor Market Outcomes for Blacks and Whites.” *Research in Labor Economics*, 査読有, 43, 2016, 227-286. DOI: 0.1108/S0147-912120160000043015.

②② Usui, Emiko. “Occupational Gender Segregation in an Equilibrium Search Model.” *IZA Journal of Labor Economics*, 査読有, 4(13), 2015, 1-14. DOI: 10.1186/s40172-015-0028-2.

②③ Maruyama, Shiko and Nakamura, Sayaka. “The Decline in BMI among Japanese

- Women after World War II.” *Economics and Human Biology*, 査読有, 18, 2015, 125-138. DOI: 10.1016/j.ehb.2015.05.001.
- ②4 Johar, Meliyanni, Maruyama, Shiko, and Nakamura, Sayaka. “Reciprocity in the Formation of Intergenerational Coresidence.” *Journal of Family and Economic Issues*, 査読有, 36, 2015, 192-209. DOI: 10.1007/s10834-013-9387-7
- ②5 Takayama, Noriyuki. “Managing Pension and Healthcare Costs in Rapidly Aging Depopulating Countries: The Case of Japan.” Asher, M. et al. eds., *Strengthening Social Protection in East Asia*, Routledge, 査読有, 2015, 19-36.
- ②6 高山憲之「パネルデータからみた第3号被保険者の実態」年金研究, 査読有, 1, 2015, 3-31.
- ②7 高山憲之「年金制度の現状と課題」年金と経済, 査読無, 33(4), 2015, 60-110.

〔学会発表〕(計20件)

臼井恵美子. How Does Informal Caregiving Affect Daughters’ Employment and Mental Health in Japan? *Population Association of America*, 2017, Chicago (USA).

高山憲之. Several Questions on Basic Ideas of the 1994 World Bank Report Averting the Old Age Crisis. *IPLE-CASS Conference on Worldwide and China’s Pension Reform*. 2017, Guobin Hotel, Beijing (招待講演).

臼井恵美子「日本の労働市場における年金世代男性のさらなる貢献の可能性」国立大学附置研究所・センター長会議 第三部会シンポジウム、高齢化時代の働き方・暮らし方, 2017, 東京

臼井恵美子. Breastfeeding Practices and Parental Employment in Japan. 一橋大学・中国人民大学共催第7回アジア政策フォーラム『高齢化時代への対応』2017, 一橋大学.

高山憲之. Major Changes in Japanese Public Pension System: Their Backgrounds and Underlying Philosophie. *The China-Japan Joint Workshop on Pensions*, 2017, IPLE-CASS, Beijing (招待講演).

臼井恵美子. Are Japanese Men of Pensionable Age Underemployed or Overemployed? *Japan Economic Seminar*, 2016, コロンビア大学 (USA).

中村さやか. The Effect of School Lunch on Early Teenagers’ Body Weight. *日本経済学会春季大会*, 2016, 名古屋大学.

中村さやか. The Effect of School Lunch on Early Teenagers’ Body Weight. *Asian Meeting of the Econometric Society*, 2016, 同志社大学.

臼井恵美子. The Effects of Providing Eldercare on Daughters’ Employment and

Mental Health in Japan. *International Conference on Population Aging in Three East Asian Countries: Demographic Transformation and Socio-Economic Responses of Korea, China and Japan*. 2016, 高麗大学(韓国).

中村さやか. The Effect of School Lunch on Early Teenagers’ Body Weight. *医療経済学会*, 2016, 早稲田大学.

高山憲之. Funded Pensions: The Japanese Experience and Its Lessons. *Special Seminar on Pensions*. 2016, CASS, Beijing (招待講演).

中村さやか. The Effect of School Lunch on Early Teenagers’ Body Weight. *Japan Taiwan Korea Health Economics Associations Joint Conference*, 2016, Seoul National University (招待講演).

臼井恵美子. How to Share Housework Between Husbands and Wives: Improving Marital Satisfaction for Working Wives in Japan. *IZA/RIETI Workshop*, 2015, 経済産業省.

臼井恵美子. Are Japanese Men of Pensionable Age Underemployed or Overemployed? *慶応義塾大学応用経済学ワークショップ*, 2015, 慶応義塾大学.

臼井恵美子. 親の働き方と子供の家庭教育. 一橋大学経済研究所定例研究会, 2015, 一橋大学.

臼井恵美子. Are Japanese Men of Pensionable Age Underemployed or Overemployed? *RAND 研究会*, 2015, RAND (USA).

臼井恵美子. Employer Learning, Job Changes, and Wage Dynamics. *Hitotsubashi Summer Institute*, 2015, 一橋大学.

中村さやか. Why Does Development Make Men Heavier than Women? *医療経済学会*, 2015, 京都大学.

臼井恵美子. Are Japanese Men of Pensionable Age Underemployed or Overemployed? *医療経済学会*, 2015, 京都大学.

高山憲之「年金受給開始前後における就業状況と年金受給の実態」日本年金学会年次総会, 2015, JJK 会館(東京都), 招待講演.

〔図書〕(計1件)

Takayama, Noriyuki, Inagaki, Seiichi, and Oshio, Takashi. “The Japanese Longitudinal Survey on Employment and Fertility (LOSEF): Essential Features of the 2011 Internet Version and Guide to Its Users.” *Research Institute for Policies on Pension and Aging*, 2017, 79.

6 . 研究組織

(1)研究代表者

臼井 恵美子 (Usui, Emiko)
一橋大学・経済研究所・准教授
研究者番号：50467263

(2)研究分担者

高山 憲之 (Takayama, Noriyuki)
公益財団法人年金シニアプラン総合研究
機構・研究部・研究主幹
研究者番号：30102940

中村 さやか (Nakamura, Sayaka)
名古屋大学・経済学研究科・准教授
研究者番号：20511603

奥村 綱雄 (Okumura, Tsunao)
横浜国立大学・大学院国際社会科学研
究院・教授
研究者番号：90323922

小林 美樹 (Kobayashi, Miki)
佐賀大学・経済学部・准教授
研究者番号：70722388